

2017 年度チャイルドルーム実施報告

1 目的

- ・大会期間中に乳幼児を帯同して大会に参加する選手や役員、大会関係者や観覧者のために、環境を整え便宜を図る。

2 使用目的

- ・乳幼児の食事及び授乳
- ・乳幼児の着替え、おむつ替え
- ・乳幼児の休憩、仮眠

3 本年度実施報告

- 蒲郡ワールドカップでは、役員派遣の費用を蒲郡ワールドカップ実行委員会で負担していただいた。
- 江の島オリンピックウィークでは、江の島オリンピックウィーク実行委員会が主催し、レディース委員会が協力する形で実現した。

大 会・場 所	期 間	延べ利用者数
全日本470 江の島ヨットハーバー	8月17日(木)～ 8月23日(水)	31人
470ジュニアワールド 江の島ヨットハーバー	8月26日(土)～ 9月2日(土)	22人
プレ福井国体 若狭和田マリーナ	9月7日(木)～ 9月10日(日)	11人
愛媛国体 新居浜マリーナ	9月30日(土)～ 10月4日(水)	61人
蒲郡ワールドカップ 海陽ヨットハーバー	10月15日(日)～ 10月22日(日)	24人
江の島オリンピックウィーク 江の島ヨットハーバー	10月26日(木)～ 10月29日(日)	15人

- ・今年度初めて年間を通して合計36日間の実施をしたが、全大会を通して選手や大会関係者には、安心して乳幼児を連れて参加できたと喜んでいただけた。出艇前後に子どもの顔を見ることができるのが、心の安定となったようだ。
- ・蒲郡ワールドカップでは連日雨模様の天候が続いたので、親子連れにとってはチャイルドルームが設置されていてとても助かった。
- ・観覧者からは、事前にチャイルドルームがあることを知っていれば、もっと気楽にヨットハーバーに来ることができたとの声をいただいた。

4 今後の課題

- ・チャイルドルームの設置に関する情報を、事前に一般の観覧者にも周知していく。

- ・国体は地元の実行委員会から設置場所の確保や準備、保育士の確保等様々な支援をいただけるが、他の大会はレディース委員会のメンバーだけで実施しなくてはならない。来年度からは、国体以外は江の島での実施になるので、関東水域のレディース委員や協力していただけるスタッフの増員を確保していく必要がある。
- ・今年度は江の島で3大会実施したが、合計19日間にわたり保育士を確保するために、地元藤沢の団体に依頼した。来年度からは2020に向けて、どのような方法で保育士を確保していくのかを、実行委員会とも情報共有し再考していこうと思う。

